

(2)主要作物の土壤消毒剤使用基準

○麦類土壤消毒剤

[illegible]

○豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげんを除く)土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	萎黄病	菌核病	苗立枯病	苗立枯病 (リゾクトニア菌)							使用方法等
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○															1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。

○ばれいしょ土壤消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	ネキリムシ類	ハリガネムシ類			青枯病	そうか病	亀の甲症	萎凋病	粉状そうか病	黒あざ病				使用方法等
クロルピクリン	クロールピクリン(劇)	○			○	○	○			○	○	○							土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロビク80(劇)	○				○	○			○	○								土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○								○									土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)									○	○								全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
			○	○															1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
クロルピクリン,D-D	ダブルストッパー(劇)		○	○							○		○						土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)
カーバムナトリウム塩	キルパー(普)										○								所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)										○		○	○	○				本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。

○あぶらな科野菜(キャベツ、こまつなを除く)土壌消毒剤

[illegible]

○キャベツ土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	萎黄病	菌核病	苗立枯病	(リゾクトニア菌)	根こぶ病	バリエイシリウム萎凋病	株腐病				使用方法等
カーバム	NCS													○					(散布全面処理<無被覆>)無被覆の場合、原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和をして、7～10日後にガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
													○	○					(散布全面処理)原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○		○													1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
クロルピクリン	クロピクテブ(劇)											○							土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○							○										土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
												○							土壌くん蒸<圃場>「1㎡あたり10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。
	クロールピクリン(劇)	○			○		○	○	○					○					土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)	○						○	○	○									土壌くん蒸
クロルピクリン、D-D	ソイリーン(劇)		○	○								○							耕起整地後、30cm間隔のフリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ホリエチン、ビニール等で被覆する。
メチルイソチオシアネート、D-D	ディ・トラベックス油剤(劇)	○							○	○				○	○				圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
カーバムナトリウム塩	キルパー													○					所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
														○	○				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和して被覆する。
																			前作のにんにくのイモグサレセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモジス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)		○						○				○	○	○	○			本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。

○だいこん土壤消毒剤

[illegible]

[illegible]

○はくさい土壌消毒剤

[illegible]

○ブロッコリー土壌消毒剤

成分名	商品名	ネコブセンチュウ	根こぶ病																使用方法等
カーバムナトリウム塩	キルパー	○																	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
			○																所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作のにんにくのイモクサセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモジス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコバエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)		○																本剤の所定量を均一に散布して、土壌と混和する。

○うり科野菜(すいか、きゅうり、メロン、にがうり、うり類「漬物用」を除く)

[illegible]

○かぼちゃ土壌消毒剤

[illegible]

○きゅうり土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	アブラムシ類	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	疫病	白絹病	つる割病	苗立枯病（ビシウム菌）	苗立枯病	苗立枯病（リゾクトニア菌）	ホモブシス根腐病		使用方法等
カーバム	NCS		○															（灌水チューブ法）予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30リットルを水と共に10aあたり水量が3000リットル（100倍希釈）になるように灌水注入して、7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付又はは種をする。
			○															（散布全面処理）原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
メチルイソチオシアネート	トラベックサイド油剤(劇)	○										○						圃場を耕起・整地した後、30cm間隔の升りに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土しホリエチレン、ビニール等で被覆する。 薬剤処理7～10日後にガス抜き作業を行う。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○			○											1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
カーバムナトリウム塩	キルパー		○									○						所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
												○						予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
												○			○			所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																		前作のにんにくのイモグサレセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																		前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																		前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモブシス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																		前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコハエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。

○きゅうり土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	アブラムシ類	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	疫病	白絹病	つる割病	苗立枯病（ビシウム菌）	苗立枯病	苗立枯病（リゾクトニア菌）	ホモブシス根腐病		使用方法等
クロルピクリン	クロピクフロー(劇)	○										○				○		耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
																		本欄に挙げられた前作の収穫終了後古株撤去前まで使用可 コナジラミ類蔓延防止、前作のいがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうがまたは葉しょうがの古株枯死、前作のいんげんまめ、きゅうり、すいかまたはうり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)の古株枯死、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそうまたはごぼうの古株枯死、前作のみょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死 灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
	クロピクテブ(劇)	○										○	○		○	○		土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)	○						○	○	○	○	○		○				土壌くん蒸
	クロールピクリン(劇)	○			○			○	○	○	○	○		○		○		土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○								○	○	○		○				土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
																○		土壌くん蒸<圃場>「1㎡あたり10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。
														○				土壌くん蒸<床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1平方メートルあたり10～20錠処理」地表面に所定量を散布、混和する。
メチルイソチオシアネート、D-D	ディ・トラベックス油剤(劇)	○										○						圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土、鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
クロルピクリンD-D	ソイリーン(劇)		○	○								○				○		耕起整地後、30cm間隔のフリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
	ダブルストッパー(劇)		○	○								○						土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)

○すいか土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	疫病	黒点根腐病	白絹病	つる割病	苗立枯病	ホモブシス根腐病					使用方法等
カーバム	NCS		○																(灌水チューブ法) 予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30リットルを水と共に10aあたり水量が3000リットル(100倍希釈)になるように灌水注入して、7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付又はは種をする。
			○																(散布全面処理) 原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
メチルイソチオシアネート	トラベックサイド油剤(劇)	○										○							圃場を耕起・整地した後、30cm間隔のホトリに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土しポリエチレン、ビニール等で被覆する。 薬剤処理7～10日後にガス抜き作業を行う。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○		○													1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
カーバムナトリウム塩	キルパー		○																所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
												○							所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
												○							予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作のにんにくのイモグサレセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコキキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモブシス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコハエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
クロルピクリン	クロピクフロー(劇)		○									○		○					耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
																			本欄に挙げられた前作の収穫終了後古株撤去前まで使用可 コナジラミ類蔓延防止、前作のにがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうがまたは葉しょうがの古株枯死、前作のいんげんまめ、きゅうり、すいかまたはうり類(漬物用、ただし、漬物用ハコを除く)の古株枯死、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそうまたはごぼうの古株枯死、前作のみょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死 灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。

○すいか土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	疫病	黒点根腐病	白絹病	つる割病	苗立枯病	ホモブシス根腐病					使用方法等
クロルピクリン	クロピクテープ(劇)	○										○							土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○							○		○	○							土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
												○							土壌くん蒸<圃場>「1㎡あたり10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。
													○						土壌くん蒸<床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1平方メートルあたり10～20錠処理」地表面に所定量を散布、混和する。
	クロールピクリン(劇)	○			○		○	○	○		○	○	○						土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)	○					○	○			○	○		○					土壌くん蒸
クロルピクリン D-D	ソイリーン(劇)		○	○						○		○							耕起整地後、30cm間隔の格子状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
	ダブルストッパー(劇)		○	○								○							土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)
メチルイソチオシ アネート,D-D	ディ・トラベックス油剤 (劇)	○										○							圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。

○トマト土壤消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	青枯病	萎凋病	疫病	褐色根腐病	紅色根腐病	苗立枯病	苗立枯病（ピシウム菌）	（リゾクトニア菌）	根腐萎凋病	半身萎凋病	使用方法等
カーバム	NCS											○							(灌水チューブ法) 予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30リットルを水と共に10aあたり水量が3000リットル(100倍希釈)になるように灌水注入して、7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付又はは種をする。
								○											(散布全面処理) 原液を水で3倍に希釈して、土壌全面に均一に散布し直ちに土壌混和して、ビニール等で7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付をする。
メチルイソチオシアネート、D-D	ディ・トラベックス油剤(劇)	○								○						○	○	○	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○		○													1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
クロルピクリン	クロピクフロー(劇)		○							○									耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
																			本欄に挙げられた前作の収穫終了後古株撤去前まで使用可 コナシミ類蔓延防止、前作のいがり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうがまたは葉しょうがの古株枯死、前作のいんげんまめ、きゅうり、すいかまたはうり類(漬物用)、ただし、漬物用(もんを除く)の古株枯死、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそうまたはごぼうの古株枯死、前作のみょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死 灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
	クロピクテープ(劇)		○							○		○			○	○			土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○							○	○				○					土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
										○									土壌くん蒸<圃場>「1㎡あたり10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。
									○										土壌くん蒸<圃場>「1㎡あたり10～15錠処理」地表面に所定量を散布処理する。
									○										土壌くん蒸<圃場>「1㎡あたり15～20錠処理」地表面に所定量を散布処理後、深耕ロータリーを用いて混和処理する。
														○					土壌くん蒸<床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1平方メートルあたり10～20錠処理」地表面に所定量を散布、混和する。
	クロールピクリン(劇)	○			○		○	○	○	○	○			○				○	土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)	○					○	○	○	○								○	土壌くん蒸
クロルピクリン D-D	ソイリーン(劇)		○	○					○	○									耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
	ダブルストッパー(劇)		○	○						○							○		土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)

○トマト土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	青枯病	萎凋病	疫病	褐色根腐病	紅色根腐病	苗立枯病	苗立枯病（ピシウム菌）	（リゾクトニア菌）	根腐萎凋病	半身萎凋病	使用方法等
カーバムナトリウム塩	キルパー	○							○									○	所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
									○										予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
		○							○									○	所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
																			前作のにんにくのイモグサレセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモプシス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコハエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)	○							○	○		○	○				○	○	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。 白絹病にも適用がある。
																○			土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。

○なす土壤消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	青枯病	萎凋病	疫病	苗立枯病	苗立枯病（リゾクトニア菌）	半枯病	半身萎凋病	白絹病		使用方法等
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○		○												1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作業処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
カーバムナトリウム塩	キルパー		○												○			所定量の薬液を土壤中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
														○				予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壤表面に散布または灌水する。
												○		○				所定量の薬液を土壤表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																		前作のにんにくのイモグサセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壤表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																		前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壤表面に散布または灌水する。
																		前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモジス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壤表面に散布又は灌水する。
																		前作のねぎの作物残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
クロルピクリン	クロピクフロー(劇)		○						○					○				耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からホリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する
																		本欄に挙げられた前作の収穫終了後古株撤去前まで使用可 コナジラミ類蔓延防止、前作のにがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうがまたは葉しょうがの古株枯死、前作のいんげんまめ、きゅうり、すいかまたはうり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)の古株枯死、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそうまたはごぼうの古株枯死、前作のみょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死 灌水チューブを設置し、その上からホリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する
	クロピクテープ(劇)								○				○		○			土壌くん蒸

○なす土壤消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	青枯病	萎凋病	疫病	苗立枯病	苗立枯病（リゾクトニア菌）	半枯病	半身萎凋病	白絹病		使用方法等
クロルピクリン	クロルピクリン錠剤(劇)	○							○			○			○			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
									○						○			土壌くん蒸<圃場>「1平方メートルあたり10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。
												○						土壌くん蒸<床土・堆肥>30cmの高さに盛土する。「1平方メートルあたり10錠処理」地表面に所定量を散布、混和する。
	クロールピクリン(劇)	○			○		○	○	○		○	○			○			土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロビク80(劇)	○					○	○	○						○			土壌くん蒸
メチルイソチオシ アネート,D-D	ディ・トラベックス油剤 (劇)	○								○				○	○			圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
クロルピクリン D-D	ソイリーン(劇)		○	○					○									耕起整地後、30cm間隔のフドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ホリエチレン、ビニール等で被覆する。
	ダブルストッパー(劇)		○	○					○					○	○			土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)
ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)		○						○				○		○	○		本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。

○ピーマン土壤消毒剤

[illegible]

○たまねぎ土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ケラ	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	疫病	乾腐病	黒腐菌核病	黒穂病	紅色根腐病	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	苗立枯病	べと病					使用方法等
クロルピクリン	クロルピクリン錠剤(劇)	○					○					○							土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
	クロールピクリン(劇)	○		○	○	○	○					○							土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)											○							土壌くん蒸
カーバムナトリウム塩	キルパー							○	○										所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
								○											予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
													○						所定量の薬液を積み上げた土壌表面に散布し直ちに被覆する。
																			前作のにんにくのイモガサセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイタニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモフシス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)		○					○	○	○	○	○		○					本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。
メチルイソチオシアネート、D-D	ディ・トラベックス油剤(劇)	○						○	○										圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。

○ねぎ土壤消毒剤

有効成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	ネギハモグリバエ	ネダニ類	萎凋病	黒腐菌核病	紅色根腐病	小菌核腐敗病	白絹病	苗立枯病	苗立枯病 (ハリゾントニア菌)	根腐萎凋病	使用方法等
メチルイソチオシアネートD-D	ディトラベックス油剤(劇)	○									○	○			○			○	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
メチルイソチオシアネート	トラベックサイド油剤(劇)	○									○				○				圃場を耕起・整地した後、30cm間隔のツリに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土しホリエチレン、ビニール等で被覆する。 薬剤処理7～10日後にガス抜き作業を行う。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○		○													1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り干鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作業処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
										○									全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り干鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し、直ちに覆土鎮圧する。
クロルピクリン	クロピクテープ(劇)														○				土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○													○				土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
	クロールピクリン(劇)	○			○		○	○			○				○	○			土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)														○				土壌くん蒸
クロルピクリン D-D	ソイリーン(劇)		○	○											○				耕起整地後、30cm間隔のツリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ホリエチレン、ビニール等で被覆する。
	ダブルストッパー(劇)		○	○							○								土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)
カーバムナトリウム塩	キルバー											○			○				所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
												○			○				所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																	○		予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作のにんにくのイモガサレセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモジス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコバエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)		○						○		○	○	○	○	○		○	○	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。

○ほうれんそう土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	ホウレンソウケナガコナダニ	萎凋病	株腐病	立枯病	苗立枯病（ビシウム菌）	苗立枯病	根腐病	バーティシリウム萎凋病		使用方法等
カーバム	NCS(普)									○								(灌水チューブ法) 予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30リットルを水と共に10aあたり水量が3000リットル(100倍希釈)になるように灌水注入して、7～10日間被覆した後ガス抜きを行い、ガス抜き7～10日後に植付又はは種をする。
メチルイソチオシアネート,D-D	ディ・トラベックス油剤(劇)	○								○			○			○		圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
メチルイソチオシアネート	トラベックスサイド油剤(劇)	○								○			○					圃場を耕起・整地した後、30cm間隔のホリに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土しポリエチレン、ビニール等で被覆する。 薬剤処理7～10日後にガス抜き作業を行う。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○		○												1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作業処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
カーバムナトリウム塩	キルバー(普)									○								所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
									○		○	○						所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
										○								予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																		前作のにんにくのイモグサセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																		前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミワ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																		前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミワ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモジス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																		前作のほうれんそうのホウレンソウケナガコナダニ蔓延防止 1) 所定量の薬液を土壌表面に散布する。 2) 所定量の薬液を土壌表面に散布し混和する。
																		前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコハエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
クロルピクリン	クロピクフロー(劇)		○							○								耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
																		本欄に挙げられた前作の収穫終了後古株撤去前まで使用可 コナジラミ類蔓延防止、前作のにがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうがまたは葉しょうがの古株枯死、前作のいんげんまめ、きゅうり、すいかまたはうり類(漬物用、ただし、漬物用メロンを除く)の古株枯死、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそうまたはごぼうの古株枯死、前作のみょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死 灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
	クロピクテープ(劇)									○								土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○								○		○						土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
										○								土壌くん蒸<圃場>「1平方メートルあたり8～10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。

[illegible]

○ほうれんそう土壤消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	ホウレンソウケナガコナダニ	萎凋病	株腐病	立枯病	苗立枯病（ビシウム菌）	苗立枯病	根腐病	バーティシリウム萎凋病			使用方法等
クロルピクリン	クロールピクリン(劇)	○			○		○	○	○	○	○	○		○	○				土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)	○					○	○	○	○		○		○					土壌くん蒸
クロルピクリン D-D	ソイリーン(劇)		○	○						○									耕起整地後、30cm間隔のチリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ホリエチレン、ビニール等で被覆する。
	ダブルストッパー(劇)		○	○						○									土壌くん蒸（30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。）
	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)								○	○	○	○			○				本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。

○レタス土壌消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	根腐病	ビツグベイン病	すそ枯病	バーティシリウム萎凋病	白絹病							使用方法等
メチルイソチオンアネート,D-D	ディ・トラベックス油剤(劇)	○							○			○								圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○		○														1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
クロルピクリン	クロピクテブ(劇)									○										土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○							○											土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
	クロールピクリン(劇)	○			○		○	○	○	○										土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)	○					○	○	○	○										土壌くん蒸
カーバムナトリウム塩	キルパー			○					○											所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
										○	○									所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																				前作のにんにくのイモグサセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																				前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																				前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモジス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																				前作のねぎの作物残渣に寄生したクロバネキノコバエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。
ダゾメット	パスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)			○							○		○							本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
クロルピクリン,D-D	ソイリーン(劇)		○	○																耕起整地後、30cm間隔のフタリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ホリエチレン、ビニール等で被覆する。

〇いちご土壤消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	コガネムシ類幼虫	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	萎黄病	疫病	炭疽病	青枯病	萎凋病	芽枯病							使用方法等
カーバム	NCS(普)								○												(灌水チューブ法) 予め灌水チューブを設置し、ビニール等で被覆する。原液30リットルを水と共に10aあたり水量が3000リットル(100倍希釈)になるように灌水注入して、7～10日間被覆した後カス抜きを行い、カス抜き7～10日後に植付又はは種をする。
メチルイソチオンアネートD-D	ディ・トラベックス油剤(劇)	○							○	○	○		○								圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にカス抜き作業を行う。
メチルイソチオンアネート	トラベックスサイド油剤(劇)	○							○												圃場を耕起・整地した後、30cm間隔のチドリに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土しホリエチレン、ビニール等で被覆する。 薬剤処理7～10日後にカス抜き作業を行う。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○		○															1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
クロルピクリンD-D	ソイリーン(劇)		○	○					○		○										耕起整地後、30cm間隔のチドリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ホリエチレン、ビニール等で被覆する。
クロルピクリン	クロピクフロー(劇)		○	○					○												耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からホリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
																					本欄に挙げられた前作の収穫終了後古株撤去前まで使用可 コナジラミ類蔓延防止、前作のいがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうがまたは葉しょうがの古株枯死、前作のいんげんまめ、きゅうり、すいかまたはうり類(漬物用、ただし、漬物用用を除く)の古株枯死、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそうまたはごぼうの古株枯死、前作のみょうが(花穂)、みょうが(莖葉)、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セリリまたは花き類・観葉植物の古株枯死 灌水チューブを設置し、その上からホリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。
	クロピクテープ(劇)			○					○	○											土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○							○	○	○										土壌くん蒸(床土・堆肥)床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
									○												土壌くん蒸<圃場>「1㎡あたり10錠処理」地表面に所定量を散布処理する。
	クロールピクリン(劇)	○			○		○	○	○		○										土壌くん蒸
カーバムナトリウム塩	キルバー(普)	ドクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)	○				○	○	○		○										土壌くん蒸
		ダブルストッパー(劇)		○	○				○		○										土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)
									○												所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
									○												予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
				○					○												所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
																					前作のにんにくのイモグサレセンチュウ蔓延防止
																					所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																					前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止
																					所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																					前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハダシダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモフシス根腐病蔓延防止
																					予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																					前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコ類蔓延防止
																					ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。

ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)								○	○	○	○	○				本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。
-------	-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	--	--	--	------------------------

○アスパラガス土壌消毒剤

成分名	商品名	セン チュウ 類	ケ ラ	ハ リ ガ ネ ム シ 類	ネ キ リ ム シ 類						立 枯 病	紋 羽 病							使用 方法 等
クロルピクリン	クロールピクリン(劇)	○	○	○	○						○	○							土壌くん蒸
	ドクロール ドジョウピクリン クロビク80(劇)	○		○	○						○								土壌くん蒸

○にんじん土壤消毒剤

成分名	商品名	センチュウ類	ネコブセンチュウ	ネグサレセンチュウ	ケラ	ハリガネムシ類	ネキリムシ類	コガネムシ類幼虫			こぶ病	紋羽病	しみ腐病	黒しみ病	萎凋病				使用方法等
クロルピクリン	クロールピクリン(劇)	○			○	○	○				○	○	○						土壌くん蒸
	ドロクロール ドジョウピクリン クロピク80(劇)	○				○	○												土壌くん蒸
	クロルピクリン錠剤(劇)	○										○							土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴あたり1錠処理する。<圃場>「1穴あたり1錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。
メチルイソチオシアネート、D-D	ディ・トラベックス油剤(劇)	○											○	○	○				圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。
メチルイソチオシアネート	トラベックスサイド油剤(劇)	○																	圃場を耕起・整地した後、30cm間隔のフリに深さ約12～15cmの穴をあけ、所定量を注入し、直ちに覆土・鎮圧する。 薬剤処理7～10日後(但し、たばこは30日後)にガス抜き作業を行う。
D-D	D-D DC油剤 テロン(劇)		○	○				○											1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作業処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
クロルピクリン D-D	ソイリーン(劇)		○	○									○						耕起整地後、30cm間隔のフリ状に深さ約15cmに所定量を注入し、直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。
	ダブルストッパー(劇)		○	○									○	○	○				土壌くん蒸(30×30cmごとの深さ15cmの穴に1穴処理する。)
カーバムナトリウム塩	キルパー(普)		○										○						1) 所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し直ちに被覆または覆土・鎮圧する。 2) 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作のにんにくのイモグサセンチュウ蔓延防止 所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のなすのフザリウム立枯病の蔓延防止、前作のきゅうりの褐斑病、つる枯病の蔓延防止、前作のトルコギキョウの斑点病蔓延防止 所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
																			前作の野菜類又は花き類・観葉植物の古株枯死、アザミウマ類蔓延防止、前作のいちごのネグサレセンチュウ蔓延防止、前作のトマト、ミニトマト、ピーマン、とうがらし類又はきゅうりのネコブセンチュウ蔓延防止、前作のトマト又はミニトマトのコナジラミ類蔓延防止、前作のトマトのハクサイダニ蔓延防止、前作のきゅうりのコナジラミ類、ホモジス根腐病蔓延防止 予め被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布又は灌水する。
																			前作のねぎの作物残渣に寄生したクロハネキノコバエ類蔓延防止 ほ場内に集積した残渣物に所定量の薬液を散布し被覆する。

○果樹類土壌消毒剤

成分名	商品名	白紋羽病	紫紋羽病																	使用方法等
カーバム	NCS	○	○																	耕起整地後30cm間隔の千鳥状に深さ約15～50cmの穴をあけて薬液を注入し、ビニール等で7～10日間被覆する。

○かんきつ(苗木)土壌消毒剤

成分名	商品名	温州萎縮病																		使用方法等
クロルピクリン	クロルピクリン錠剤(劇)	○																		土壌くん蒸<圃場>深さ15cmと45cmの位置のそれぞれに1㎡あたり10錠をばら撒き散布する
	クロールピクリン(劇)	○																		土壌くん蒸

○なし土壌消毒剤

成分名	商品名	白紋羽病																		使用方法等
ダゾメット	バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤(劇)	○																		被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和する。